

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 20 日現在

機関番号：35302

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23401034

研究課題名(和文) 西南中国及び東南アジア大陸部における伝統的土器製作の比較研究

研究課題名(英文) The comparative study of the traditional earthenware making in Southwest China and the mainland of Southeast Asia

研究代表者

徳澤 啓一 (TOKUSAWA, Keiichi)

岡山理科大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：90388918

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：中国雲南省及東南アジア大陸部における土器製作を俯瞰し、その多様性を提示できた。また、歴史性・民族性、社会性を下敷きとする土器製作の地域性を明らかにし、考古学者の最大の関心事である土器様式の地域差及び季節差、個人差等の因果関係を示唆する民族誌的生態を抽出した。そして、物質文化研究に対する文化的・技術的視点に加えて、経済的・社会的バックグラウンドに注視した新しい分析視点や解釈の枠組みを提示できた。

研究成果の概要(英文)：In this study, I have overlooked the traditional earthenware making in Yunnan, China and the mainland of Southeast Asia, it was possible to present its diversity. I revealed regional differences of the traditional earthenware making behind the regional history, ethnicity, and sociality. Resulting in this research, I was able to extract the ecology of ethnography about the style of earthenware, regionality, seasonal difference, Individual difference. These are the biggest concern of archaeologists. As a result I was able to present the framework of the new analysis perspectives and interpretation. I won a new approach economic and social approach for the material culture research.

研究分野：考古学

キーワード：総覧的調査 多国間研究 製作技術 生産様式 変容 経済的社会的要因

1. 研究開始当初の背景

西南中国及び東南アジア大陸部(以下「当該地域」と表記する)では、多様な伝統的土器製作(以下「土器製作」と略記する)に関する民族誌が残されている。

これらの製作技術及び生産様式(原材料調達・素地製作・成形・焼成・販売等)に関する民族誌的生態を参照することは、当該地域における物質文化研究及び考古学的土器研究に有益であるとともに、我が国の土器研究(縄文土器・弥生土器・土師器等)にもきわめて有効であり、これらの発展に大きく寄与した研究史的経緯がある。

しかしながら、これまでの現地調査によって、これまでと異なる多様な土器製作を多数見出すことができた。すなわち、これまで援用された民族誌は、中国雲南省(周1979ほか)、台湾(鳥居1902ほか)、タイ(高田1975ほか)等で占められており、地域的及び技術的な偏りが著しいことが明らかとなった。

そのため、当該地域全域にわたる土器製作を網羅的に俯瞰し、その多様性を強調することが不可欠であると考えに至った。

2. 研究の目的

本研究では、当該地域における伝統的土器製作に関する民族誌を俯瞰することで、その多様性を明らかにした。次に、それぞれの民族誌における原材料調達・素地製作・成形・焼成・販売等に関する製作技術及び生産様式を整理することで、当該地域における土器製作の地域差を整理した。そして、考古学分野における土器研究(例えば、土器型式及び組成とその変遷、製作技術論等)にとって、有用な民族誌的生態を抽出し、新しい分析の視点、解釈の枠組み等を提示することにした。また、当該地域では、著しい経済発展に伴って、土器製作が急速に衰退・消滅に向かっている。現地調

査で取得した写真及び映像を用いて、詳細なモノグラフを作成し、後世のための記録保存を実施し、実物とあわせて可能な限りの収集を目指すことも目的に掲げることにした。

3. 研究の方法

4ヵ年を費やして、当該地域における土器製作を網羅するフィールドワークを敢行したところ、当初計画を上回る土器製作の村寨を確認することができた。そのため、中国雲南省、ラオス、カンボジア、タイ、マレーシア、ミャンマーの土器製作に関して、総覧的な現地調査を目指したものの、ベトナム、カンボジア、タイでは、多くの未調査地域を残すことになってしまった。しかしながら、2～3国間の国境を跨ぐ邊疆地域を本研究の核心的フィールドと位置付けて、双方から国境エリアの重点的な調査を実施することができた。参与観察及びインタビューを中心として、村寨の歴史、住民の詳細とともに、製作技術及び生産様式に関する具体的内容を取りまとめた。また、デジタルスチルカメラ及びビデオを活用し、将来の土器製作の消失に備えて、参照可能なモノグラフを記録保存することで、あわせて研究基盤の保全を図る方法を採用した。

4. 研究成果

当該地域の経済発展に伴って、多くの村寨で土器製作が失われつつある。多数の未調査地域を残しており、未だ、土器製作の全体像を把握しきれていない。本研究では、中国雲南省、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイにおける現地調査を積み重ねてきた。しかしながら、多数の未調査地域を遺しており、これらを悉皆調査するとともに、マレーシア、ミャンマーにおける現地調査に着手することで、当該地域全体における土器製作の様相を俯瞰し、その多様性を明らかにすることができた。

また、地域間、村寨間、世帯間、製作者間で生じる製作技術及び生産等式の差異とその成因を明らかにすることができた。これまで、主として、地域間では文化的背景、製作者間では経験や技量等の技術的背景によって、それぞれの異同が生み出されると考えられてきた。しかし、経済的・社会的背景こそが土器製作に強く影響している事例が数多く見受けられた。例えば、製作者間の場合、総収入に占める土器製作収入の割合によって、土器製作に投下される労働時間が左右される。すなわち、収入目標にあわせて、1日の製作個数が既定され、労働時間が割り当てられることになる。家事等に時間が取られ、土器製作の時間が不足した場合は、製作工程を省略し、手抜き等の技術的なアレンジによって、帳尻合わせされる。すなわち、製作者が投下する技術の差異こそが、土器製作（土器そのもの）に表出する個体差となる。こうした視点は、地域間及び村寨間、そして、雨季と乾季（夏季）という季節性においても有効であり、製作技術及び生産様式に対して、経済的・社会的事情がインパクトのある変容を生み出した原因であることを突き止めた。

さらに、器種組成・器形等の伝統的様式の変容のプロセスが見えてきた。各地域では、数十年前に製作された土器が遺されていることもあり、住民から因果関係を聴取することで、器種の消長、器形の変化等に関するさまざまな要因を明らかにできる。例えば、中国雲南省では、1950年代漢族の移住によって、中華鍋が普及し、土鍋の需要が著しく低下した。そして、1998年村寨への通電により、電気釜が普及し、炊飯鍋が消滅した。また、タイ北部及び東北部では、2003年、村寨に水道が敷設され、水汲みの水甕を持ち運ばなくなり、高台が付き大形化した。2006年、伝統的土器の需要が著しく低下したことから、現代的な住居様

式にあわせて、装飾性の高い水甕を製作するようになった。このように、経済発展に伴って、生活様式の現代化と緊密に連動しながら伝統的様式の変容が惹起されていることに注目する必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計15件）

Kasama MOONLAMAI and Keiichi TOKUSAWA 2014 “Primaly report of traditional earthenware and stoneware making in Bruma : October 2013, in Mandlay region and Shan state, republic of union of Myanmar”, Journal of Socio Information Studies Vol.12, Society of Area Analicis Studies, pp.87-110.（査読無）

中村真里絵・徳澤啓一・北野博司 2014 「ラオス国ルアンパバーン近郊における土器および焼締陶づくりの継承 パンルアン村とチャン村の事例から」『社会情報研究』第12号 地域分析研究会 67 76頁（査読無）

徳澤啓一 2014 「ミャンマー東部における地下式窖窯を用いた焼き締め陶器製作の民族誌-インレー湖畔の半地下天井架構式窯の造窯過程を中心として-」『備前邑久窯跡群の研究-西日本における古代窯業生産の研究-』岡山理科大学考古学研究室 142-161頁（査読無）

徳澤啓一 2013 「マレーシア半島部における伝統的土器製作とその系譜 - 東南アジア大陸部と島嶼部の関係性を中心として -」『東南アジア考古学』第33号 東南アジア考古学会 27 41頁（査読有）
北野博司・徳澤啓一・中村真里絵 2013 「ラオス・ルアンパバーンの地下式窖窯

による焼き締め陶器生産 その技術と変容」『歴史遺産研究』No. 8 東北芸術工科大学歴史遺産学科 12 32頁(査読無)

徳澤啓一 2013 「西南中国及び東南アジア大陸部における伝統的土器製作の分業・協業関係の変容 製作者主体の移譲と非職能者の関与をめぐって」『物質文化 考古学民俗学研究』93 物質文化研究会 31 48頁(査読有)

Sureetatane BUBPHA and Keiichi TOKUSAWA 2012 “U-Nam, Ang-Nam, and People in Perspective of Ceramic Ecology in Salavan Province, Lao PDR”, Proceedings of the 2nd Mekong Studies Conference Vol.1, Ubon Ratchathani University Press, pp.205-234. (Thai・査読有)

徳澤啓一・片山浩子・張雪 2012 「中国雲南省 ミャンマー国境地域における伝統的土器製作 - 潞西芒巷寨及び福貢加車寨における中国領内の現地調査報告を中心として」『社会情報研究』第10号 地域分析研究会 153 168頁(査読無)

徳澤啓一・Sureetatane BUBPHA 2012 「ラオス南部における焼き締め陶器製作及び土器製作の展開 土器様式及び技術様式の地域間交流関係の整理にむけて」『社会情報研究』第10号 地域分析研究会 101 152頁(査読無)

徳澤啓一・北野博司・中村真里絵・平野裕子 2012 「ラオス北部における伝統的土器製作と焼き締め陶器製作 ラオス人民共和国ルアン・パバーン県ファンルアン村の伝統的水甕製作を中心として」『岡山理科大学紀要』第48号B 岡山理科大学 13 32頁(査読無)

徳澤啓一・平野裕子・北野博司・中村真里絵 2012 「ベトナム北部からラオス北部にかけての焼き締め陶器及び土器製

作の展開 焼き締め陶器製作の地域差と変容を中心として」『東南アジア考古学』32号 東南アジア考古学会 43 57頁(査読有)

徳澤啓一 2012 「タイ中部における伝統的土器製作とその変容 スコータイ県バン・ナー・ワットライの事例を中心として」『東南アジアの伝統的土器づくり 事例調査報告書 カンボジア・フィリピン・タイ・インドネシア』(大阪大谷大学博物館報告書第59冊) 大阪大谷大学博物館 pp.107-137(査読無)

徳澤啓一・熊代裕 2011 「王亜文著 「雲南省における朴拉族(彝族支系)の伝統的土器製作技術」」『社会情報研究』第9号 地域分析研究会 pp.85-114(査読無)

徳澤啓一・中村大介 2011 「中国雲南省における伝統的土器製作とその地域差・民族差 - 新平彝族傣族自治州及び元江哈尼族彝族傣族自治県の比較を中心として」『岡山理科大学紀要』第47号B 岡山理科大学, pp.23-42(査読無)

徳澤啓一 2011 「タイ南部における伝統的土器製作とその変容 新しい技術様式の受容と世代間の分業を中心として」『東南アジア考古学』31号, 東南アジア考古学会, pp.39-52(査読有)

[学会発表](計7件)

徳澤啓一 2014.5.18 「ミャンマー北部における伝統的土器製作 マンダレー管区の民族誌を中心として」『日本考古学協会第80回総会』(於:日本大学)

徳澤啓一 2014.3.30 「西南中国及び東南アジア大陸部の「泥窯」 泥漿被覆野焼きの地域差を中心として」『アジアの土と炎 - 民族誌と実験考古学の最前線』(於:早稲田大学)

徳澤啓一 2013.5.26 「マレーシア半島

部における伝統的土器製作 半島内の地域性と周辺地域との系譜関係を中心として」『日本考古学協会第79回総会』(於：駒澤大学)

Sureetatanee BUBPHA and Keiichi TOKUSAWA 2012.11.16 “U-Nam, Ang-Nam, and People in Perspective of Ceramic Ecology in Salavan Province, Lao PDR”, The 2nd Mekong Studies Conference, Salavan Province, Lao PDR. (於：ラオス人民民主共和国サラワン県；Thai)

徳澤啓一 2011.11.19 「タイの土器づくり」『土器づくりの過去と現在 東南アジアの伝統的土器づくりの世界』(平成23年度大阪大谷大学文化財学科公開講座)(於：大阪大谷大学)

徳澤啓一・中村大介 2011.5.29 「中国雲南省における伝統的土器製作とその地域差 - 元江哈尼族彝族自治州の事例を中心として」『日本考古学協会第77回総会』(於：國學院大學)

徳澤啓一 2011.5.23 「東南アジア大陸部における円筒形状原型変形成形の地域差 ベトナム・ラオス・カンボジア・タイの比較を通じて」『土器と窯業の民族考古学のワークショップ』(於：関西大学)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

徳澤 啓一 (TOKUSAWA, Keiichi)

岡山理科大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：90388918